

# 学術総会を振り返って

第 115 回日本精神神経学会学術総会会長 新潟大学 染矢俊幸

2019年6月20～22日の3日間、新潟市の朱鷺メッセにおいて第115回日本精神神経学会学術総会を開催しました。大変多くの皆様に新潟まで足を運んでいただきましたことに心より感謝を申し上げます。

開催2日前には山形県沖を震源とする震度6強の地震が起き、揺れの強かった新潟県北部地域の様子が大きく報道されたこともあり、地震直後から開催を不安視する問い合わせが相次ぎました。その影響で参加を見送られた方も大勢いらっしゃったのではないかと思われますが、そうしたなかでも6,000人を超える方々にご参加いただくことができました。誠にありがとうございました。

総会テーマ「一ときをこえてはばたけー 人・ころ・脳をつなぐ精神医学」の、ときをこえての「とき」は、解き、時、朱鷺の3つの「とき」の意味をもち、ころや脳の機能・病気を解き明かし、時を超えて、新潟の象徴でもある朱鷺のように未来へ羽ばたいていけ、というメッセージでした。「こころの問題に適切に対応するためにはその現象をよく理解することが大切で、そのためには基盤にある『脳』機能の理解を深めなければならない」「たとえその道筋が困難でも、それを乗り越えていく必要がある」「一方で、還元的理解ではなく総体としての人間、一人ひとりの人を主役においてころ・脳をつなぐ精神医学、その人の人生経験や価値観を理解する医学をめざしたい」、このような私の精神医学への思いと、本総会を通じて精神医学の未来を模索し、次のステージへの架け橋にしたいという願いも盛り込みました。

本総会運営の基本コンセプトは「主体的にかかわる心」。精神医学は裾野が広く、その対象や課題解決アプローチの多様さから、多くの関連学会が活動していること、本学会がその中心として重要な役割を担っていることを重視し、広い領域の諸問題に取り組む各専門家が主体的に親学会に参加できるような会のあり方を

模索しました。これまで、一般演題数は300前後という状況が続いていましたが、それは、精神神経領域の専門性の多様さから、親学会であるこの総会のトピックは異種性が高く、そこに自らの知見を持ち寄り、発表するという土壌・文化が十分形成されてこなかったからではと考えました。この打開策として、全国の精神医学教室、関連の学会や団体などに一般演題の充実を広く呼びかけるとともに、新たに一般演題の「特別ポスターコーナー」を設けました。このコーナーでは、各大学、専門学会や関連団体と広く連携することで、参加者が専門内外の領域についての現状と課題を共有し、情報交換できる場の実現を図りました。これらの取り組みによって、約1,300題にのぼる一般演題登録を達成することができたことは、新潟大会の特筆すべき成果といえるのではないかと考えています。

実際、朱鷺メッセはどの会場も多くの参加者で溢れ、これまでの学会にはみられないほどの人数と熱気で満ちていました。特別ポスターコーナーでは、新潟自慢の塩むすびを手にしながらかしこめとディスカッションする光景がみられ、当初の目論み通り「経験を語り合う」場が実現し、これこそが学会のあるべき姿なのだと再認識しました。参加された先生方からも「ポスターセッションの充実ぶりはまるで国際学会のよう」「会場にすごい人数」「学会の新しい姿を作り上げたエポックメイキングな大会」「新しい発想で革新的な学会スタイルを体現」「精神神経学会新時代の幕開け」など多くの高い評価をいただき大変光栄に思っています。われわれがめざした「会員が主体的にかかわる学会」が多少なりとも実現できたのではないかと感じております。

また本総会では、生物学的側面だけでなく、心理社会的側面も重視したセッション編成を心がけました。会長講演もそのようなスタンスで臨み、3回目の総会開催となった新潟のまち、そのまちに新潟大学が生ま



図1 会長講演

染矢俊幸「一ときをこえてはばだけ— 人・こころ・脳をつなぐ精神医学」  
(司会：神庭重信) の模様

れた歴史を簡単に紹介し、最初に日本に近代医学が導入された頃の精神医学を取り巻く世界の動向について概説しました(図1)。続いて精神科診断学が20世紀半ばに直面した課題とそれに対して生まれた新しい動き、その後生じた「診断基準が規定するものが疾患である」という誤解、それに対応するための提言など、精神医学の課題を歴史的な角度から紐解きました。さらに、診断学の整備を受けた精神疾患の病因・病態研究や治療学研究成果、特に患者の身体的側面という視点に着目した新たな研究領域の展開、新潟中越地震対策などの災害精神医学、精神科医療構造の将来予測など、私がこれまで実際にかかわってきた精神医学研究を取り上げつつ、精神医学の多様性、それぞれの重要性について触れました。学会後のアンケートで印象に残ったプログラムとして会長講演を挙げていただいた回答も多く、「精神科医療と精神医学研究の時間的流れを、新潟大学の沿革や染矢会長の経歴とも重ね合わせながら俯瞰するとともに、今後の精神医学の課題がよく理解できました」「とても贅沢な時間を過ごすことができたことに感謝申し上げます」などの感想を拝見し、大変嬉しく思っています。

さらに、今回の総会では日本神経科学学会との連携

シンポジウムを初めて実現しました。精神疾患の病態解明へ向けて、新たな方向性を示唆する最先端の神経科学について多くの示唆が得られたと思います。基礎と臨床の枠を超えて、こころの基盤となる脳機能、その多層性を理解しようとする研究的取り組みは、21世紀の精神医学の大きな課題であると認識しています。

また、「新潟を楽しんでいただきたい」との気持ちで準備にあたった懇親会には、信濃川をのぞむ萬代橋のたもとの新潟グランドホテルに300人以上の先生方がご参加くださり、大いに盛り上がりました。神庭理事長のご挨拶では、今回のテーマや事務局の運営について身に余るお言葉を頂戴し、来賓の花角新潟県知事からは「精神医学が社会的に果たす役割は大きく、その基幹学会たる本総会をこの新潟の地で開催いただいたことに感謝したい」とのご祝辞をいただきました。宴では海外からご招待した先生方から「I am very impressed with the JSPN meeting in Niigata!!」「Congratulations to an excellent meeting in Niigata which fulfilled all expectations!!」など賞賛のお声をかけていただきました。新潟大会が国際学会にも匹敵する盛況な会になったことを大変嬉しく感じる瞬間でした。ご参加の皆様には、朱鷺メッセから懇親会会場



図2 市民公開講座『うちの家族は大丈夫？ やめたい…でもやめられない—依存を理解する』

中山秀紀「インターネット依存・ゲーム障害の実情と対策」、小原圭司「知って防ごうギャンブル依存」(司会：北村秀明)の様

への渡し船，新潟が誇る地酒やお寿司，新潟小唄にのせた古町芸妓の舞などをご堪能いただき，新潟の古き良き文化と美味旬魚とわれわれ主催側の「おもてなし」の心を十分に味わっていただけたのではないかと自負しております。

また今回の学術総会では，市民公開講座開催の宣伝を兼ねて地元紙である新潟日報に学会特集号を組み，総会開催前日に発刊しました。当日会場でご覧になった方もいらっしゃると思いますが，この特集号には大変な反響があり，学会開催中も会場内で追加の無料配布を行うほど好評でした。最終日の市民公開講座『うちの家族は大丈夫？ やめたい…でもやめられない—依存を理解する』は事前申し込み制でしたが，特集号の効果もあって市民から当日参加を希望する声が多く寄せられ，最終的には予想を上回る約300人の参加者が来場し，大変盛況でした(図2)。5月にICDに病名追加されたばかりで，今まさに大きな社会問題にもなっている「ゲーム障害」を取り上げたこともあり，素朴な内容からわれわれも深く考えさせられる内容のものまで多くの質問が飛び交い，その関心の高さがうかがえました。こうした新しい社会問題に常に関心をもって，社会のニーズに柔軟に対応していく学会活動の必要性を改めて感じました。

新潟は本学会と所縁の深い地で，1935年にわが国で

7番目の開催地となった第34回総会は「新潟革命」とも呼ばれました。すなわち学会名が「日本神経学会」から「日本精神神経学会」に，機関誌も「神経学雑誌」から「精神神経学雑誌」に改められ，これを機に本学会は日本の精神医学を牽引するプロパーの学会としての旗幟を鮮明にしたと記されています。後に本学会の英文機関誌「Psychiatry and Clinical Neurosciences」となる本邦初の欧文精神神経学雑誌「Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica」が第34回総会の2年前に創刊されていますが，その創刊にも新潟は深くかかわっており「学会の国際化」に大きな一歩を踏み出した地です。

『これまた本会としては稀有の盛会なりき。来会者一同渾然融和するが如き観あり』この文章は神経学雑誌第38巻第8号(1934年)の雑報欄からの抜粋ですが，第34回が大変盛況であったことがうかがえます。第115回もそのような盛大で活況な学術総会になるよう準備を重ねてきましたが，元号が改まったこの年，「精神神経学会新時代の幕開け」「令和の新潟革命」といった評価をいただけたことに深く感謝を申し上げます。最後になりますが，日本精神神経学会のますますの発展を祈念いたしまして，第115回日本精神神経学会学術総会の報告とさせていただきます。